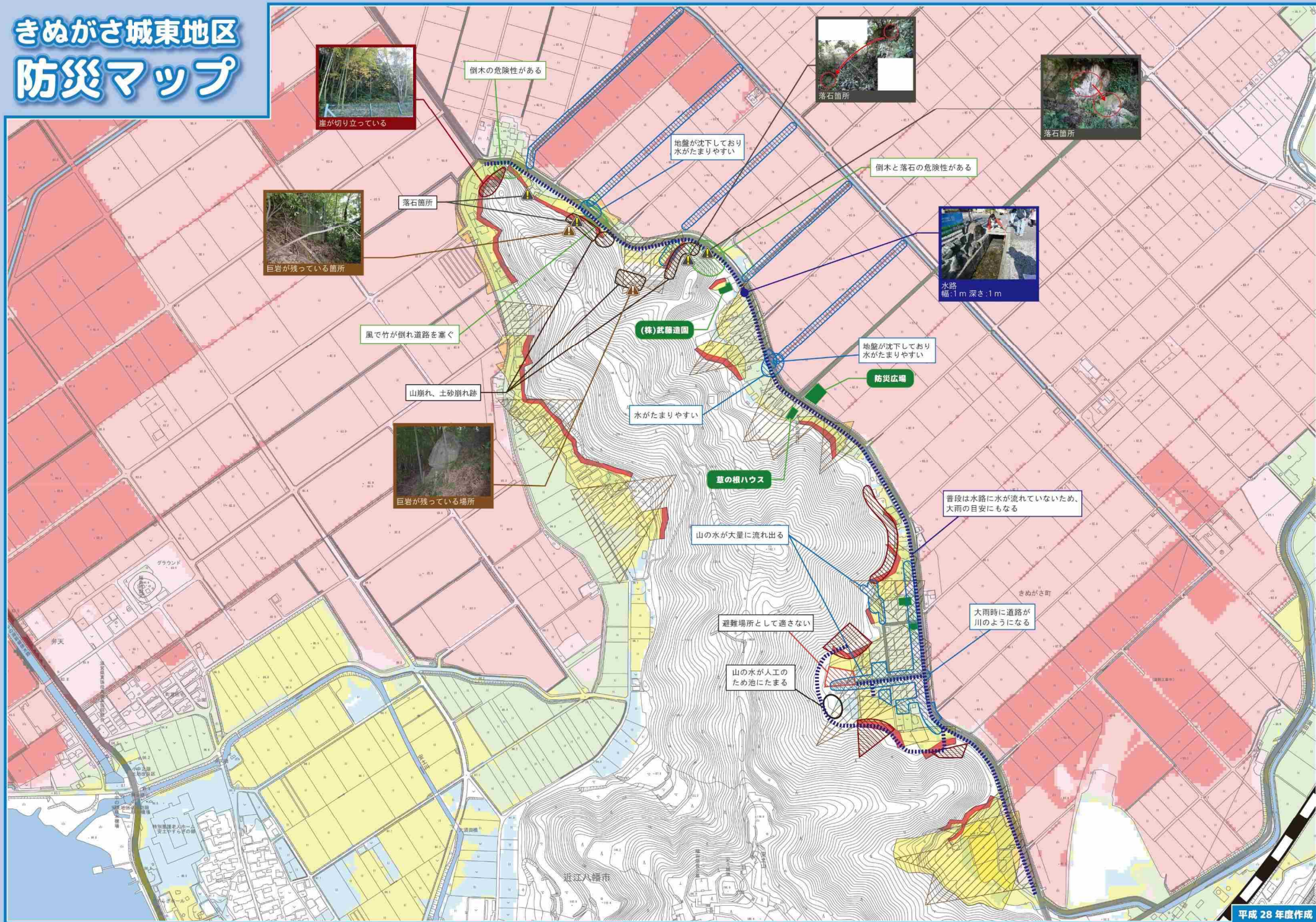


きめがさ城東地区 防災マップ



大雨時のタイムライン(〇〇地区) (案)

①具体的なタイミングはどうか。

〇〇地区と住民の行動

早逃げの時の避難場所

判断の目安	〇〇自主防災会	早逃げの時の避難場所				
		Aグループ (◆◆小学校)	Bグループ (★★設備)	Cグループ (▲▲建設)	Dグループ (安全な近所宅)	Eグループ (自宅)
大雨・洪水警報や大雨が予想される時	■自主防災会 対策本部の立ち上げ 自治会三役および自主防災本部長 事務所待機	気象情報に注意	気象情報に注意	気象情報に注意	気象情報に注意	気象情報に注意
天気の様子や気象情報(注意報、警報、台風予想など)から、 今後も気象状況が悪くなると役員で判断した時	■防災福祉会の防災班を招集 ①情報収集 ②パトロール等	避難準備 ※避難に向けての心の準備を始める	避難準備 ※避難に向けての心の準備を始める	避難準備 ※避難に向けての心の準備を始める	避難準備 ※避難に向けての心の準備を始める	避難準備 ※避難に向けての心の準備を始める
・自主防災会で、避難の必要性(警報など)がある下記の状況になると判断した時 ・または、下記のいずれかの状況に至った時	■各町の組長を招集					
避難準備・高齢者等避難開始が発令 避難勧告等が発令 〇〇川の水位が〇〇に達した時 △△川の簡易量水標の上の赤いラインまで水位が上昇した時 (△△川の天端から0.5mのラインまで水位が上昇した時) ◇◇付近の浸水が始まる前 ◆◆小学校前で橋が渡れなくなる前	■自治会より避難の呼びかけなどを実施 ■組長は各戸を回り、避難の呼びかけ ■対策本部を〇〇へ移設	○	○	○	○	○
避難勧告の解除など	パトロール、被害状況確認 住民支援(特に要配慮者)	自宅へ	自宅へ	自宅へ	自宅へ	垂直避難解除

②役割分担
●パトロール箇所をどうか。

●リスクに応じたグループ分けによるタイムライン
●(避難先に分けたタイムライン)

③移設先はどこにするのか。

④避難の基準とする
〇〇川の水位はどうか。

⑤その他
●避難時の役割
●避難後の役割
●連絡体制の構築
(●要配慮者への対応)をどうか。

⑥それぞれの避難のタイミングをどうか。

⑦避難解除のタイミングをどうか。

逃げ遅れた時は、逃げ遅れマップに基づき避難する。

世帯ごとに整理した「浸水リスク」と「土砂災害リスク」

避難に関すること

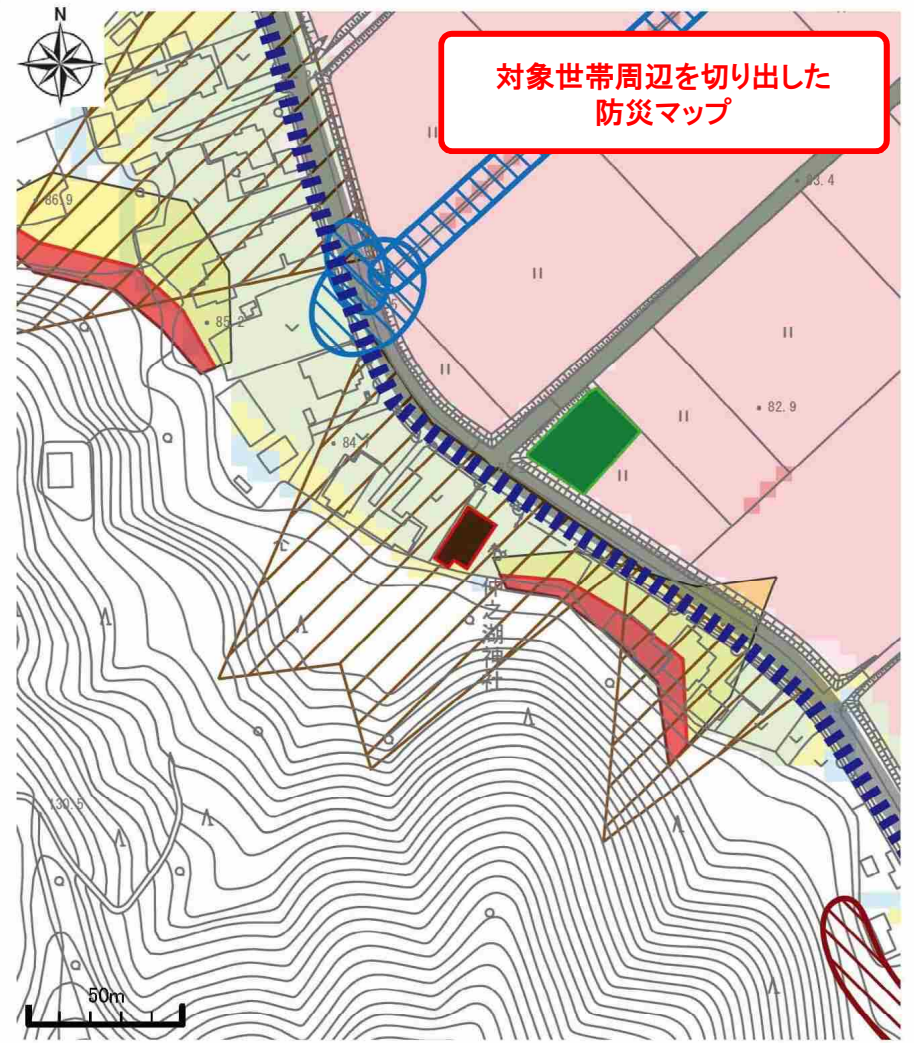
地域の人に手伝ってほしいこと

【避難カードのポイント】
 ・住民一人一人の避難行動(自助)の確認
 ・地域としての共助を考えるヒント
 →地域の避難計画を検討する際の基礎資料としての活用

きぬがさ城東		我が家の避難カード (2016版)			
世帯(主)名	草の根ハウス	住所	東近江市きぬがさ町1265		
想定する災害の種類	大雨による浸水や土砂災害				
我が家のリスク	浸水リスク	なし・ あり	1階床上浸水(1.0m以上2.0m未満)		
	土砂災害リスク	なし・ あり	種類	土石流	
	発生状況	西側斜面からの土石流		該当区域	土石流危険渓流
避難をはじめるときのタイミング					
避難場所と避難方法	周辺の状況	避難場所		避難方法	
	早逃げ				
	逃げ遅れ				
連絡先	①	②	③	④	
	草の根 太郎	草の根 花子	草の根 新太郎	草の根 裕子	
年齢	50	45	75	21	
電話番号	***-****-****	***-****-****		***-****-****	
メールアドレス	****@****.**.jp	****@****.**.jp		****@****.**.jp	
持病			歩行困難		
常備薬			〇〇薬		
支援の要・不要	要・ 不要	要・ 不要	要 ・不要	要・ 不要	
支援方法			車椅子		
備考(普段の居場所など)	勤務先	自宅	〇〇デパートを利用		〇〇大学
連絡先	⑤	⑥	⑦	⑧	
年齢					
電話番号					
メールアドレス					
持病					
常備薬					

確認すること!
 いつでもこのカードが見られるようにしてください。

- ①自宅周辺の防災マップをコピーして、ここに貼り付けてください。
- ②避難経路に赤ペンで線を入れ、危険な箇所をチェックしてください。



地先の安全度マップの凡例	土砂災害の凡例	ワーキング意見からの注意箇所
200年に一度の大雨(時間最大131mm程度の雨が降った場合) 	■ かけ崩れ ■ 土石流 	■ 過去に被災した箇所 ■ 注意が必要な箇所 ■ その他

平成28年度小学校出前講座の内容

学校	実施日	実施概要
近江八幡市立 桐原小学校	H28年10月20日	日野川フィールドワーク
	H28年11月27日	学習内容の発表（桐原っ子フェスタ）
近江八幡市立 馬淵小学校	H28年 9月20日	自然観察
	H28年10月11日	川と地域の関わり
	H28年10月14日	通学路の危険箇所調査
	H28年10月21日	こどもハザードマップの作成
	H28年11月9日	水害体験の聞き取り
	H28年11月19日	学習内容の発表（馬っこフェスティバル）

馬淵小学校

4年生を対象に、平成21年から継続して講座を実施している。今年度においても自然・生き物観察、通学路の危険調査、こどもハザードマップの作成等を実施した。

自然観察

川に入って生き物観察を行うことで、楽しみながら川に対する興味や学習意欲を高めるとともに、川の中を歩く大変さを体験した。



川と地域の関わり

地域で過去に発生した水害や、川の変遷、水の利用方法など、川の危険性だけでなく、川が地域の営みにどのように関わってきたかを学習した。



こどもハザードマップの作成

地図に川、堤防、橋などの着色を行うことで地域の特性を確認するとともに、通学路の危険箇所調査で調査した箇所を記入しグループごとにマップを作成した。



水害体験の聞き取り

体験者から、過去に地域で発生した水害について聞き取りを行い、水害の恐ろしさや水害に対する備えなどについて学習した。



桐原小学校

4年生を対象に、平成23、24、26、27年にわたり継続して講座を実施している。今年度においてもフィールドワークによる学習を行い、「桐原小学校探検マップ」を作成した。

日野川フィールドワーク



通学路を中心に、量水標、水防倉庫、過去に堤防が切れた箇所、マンボトンネルなど、日野川に関わりのある箇所を調査した。調査結果は「桐原小学校探検マップ」としてとりまとめた。

学習内容の発表

フィールドワークの学習成果や、日野川を題材にしたクイズや模型実験などを、全校生徒や保護者に発表した。



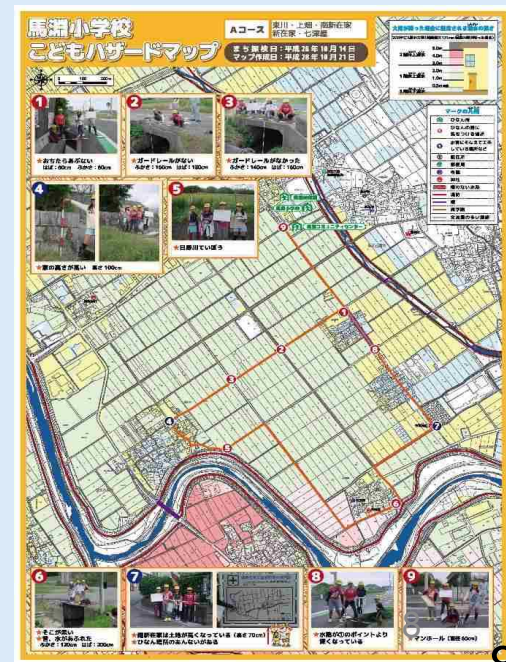
通学路の危険箇所調査

通学路を基準に6つのグループに分け、避難時に注意が必要な場所や、水害に備えて工夫している場所などを調査した。調査箇所は写真撮影を行った。



学習内容の発表

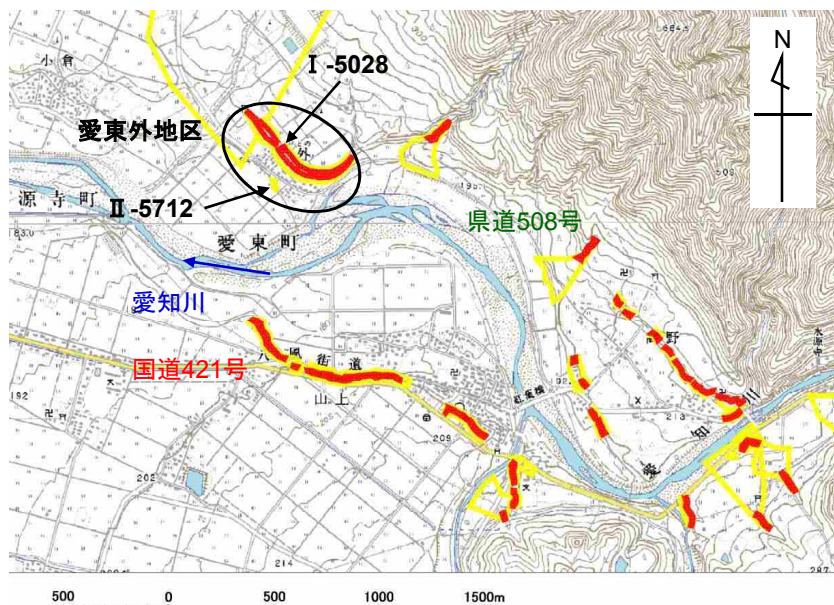
今年度の出前講座を通して学んだことやこどもハザードマップなどの学習成果を、全校生徒や保護者に発表した。



■愛東外地区の地域特性について

現在、土砂災害に強い地域づくり計画の一環として取り組みを進めている愛東外地区は、東近江市の中央に位置し、高齢者を中心に人口約160人、世帯数約60の集落である。

地区の北側は、土砂災害特別警戒区域（レッド）に指定された急傾斜地に近接しており、南側にも土砂災害警戒区域（イエロー）の指定があり、大雨時には土砂災害のリスクが高まる地域である。



◆愛東外地区の位置図



土砂災害特別警戒区域
I-5028の状況



愛東外集落センター

■これまでの取り組み

平成27年度より取り組んでおり、これまでに計4回のワーキングを実施した。

◆愛東外地区土砂災害に強い地域づくりワークショップのスケジュール

	作業内容	目的
第1回WS (H27.7.18) 開催	1. 災害履歴調査と土砂災害に備える基礎知識の習得 ○ワークショップ全体の流れの確認する ○土砂災害に備える基礎知識の習得する ○土砂災害の前兆現象の紹介する ○災害履歴調査(これまでに起きた道路冠水などの浸水被害や崖崩れなどの土砂災害、前兆現象を挙げ、地形図に展開)をおこなう	○防災マップ・避難行動計画の作成に必要な基本的事項を確認する ○地区にある災害リスクを挙げ、次のワークショップの「まちあるき」時に確認する
第2回WS (H28.1.23) 開催 ↑H27年度 ↓H28年度	2. まちあるき ○避難時に注意すべき危険箇所を確認する(道路冠水やがけ崩れの事例紹介) ○災害履歴調査で挙げた危険箇所や前兆現象に関する情報を現地確認する ○現地確認結果の意見集約・図面に展開する	○地区に潜在する危険箇所をみなさんで情報共有し、防災マップや避難計画作成時の基礎資料を作成する
第3回WS (H28.7.16) 開催	3. 避難ルートや避難のタイミングの検討(D.I.G) ○2通りの雨の降り方を想定したD.I.Gを通じて、まちあるきで発見した危険箇所を踏まえた自主避難場所や避難ルート話し合う ○雨の降り方に応じた、避難のタイミングや避難方法を話し合う	○災害時に地区全体が速やかに避難できるよう、地区で避難方法を共有する ○避難時に調整すべき事項や確認する事項を挙げておく
第4回WS (H29.2.20)	4. 共助に関するワーキング ○個人としての役割(自助)と地域としての役割(共助)を確認する (※H29.1.21に防災訓練を予定していたが、降雪のため中止となり、代わりに日を改めて役員向けワーキングを実施した。)	○土砂災害に対する地区防災力の向上を図る ○防災訓練を継続的に行うための基礎を固める